

20年目を向かえて

「箕面にフレネ教育の学校ができたみたい。」ある日パートナーがそう言った。物事の始まりというのはこのようなものかも知れない。2004年4月に箕面市の住宅街にある2階建て一軒家から始まった「わくわく子ども学校」。今から考えてみると、とても無謀な試みだったように思える。

1981年、私は滞在先のフランスのニースで、フレネ教育研究のために留学中だった若狭蔵之助氏と偶然バス停で出会い、それがきっかけでフレネ教育について学んだ。帰国後、私は教員採用試験を受けるのだが、若狭氏から面接の際には決してフレネの名前を出さないようにと忠告された。試験官はフレネのことを知らないのだからせいでドクローリーかフェリエールぐらいにしておくようにと。そのように教育の専門家の間でも知られていないフレネ教育

を看板に掲げるとは、何か怪しい人たちではないかとさえ思い、そのまま気にかけずにいた。

ところが2005年の夏、私が所属している日本フレネ教育研究会の全国集会在神戸で行われることになり、なんとわくわく子ども学校からの実践報告があった。この時初めてまーちゃん(辻正矩氏)とみほさん(藤田美保氏)に出会った。主催者側として忙しくしていたためか、乗り合わせたエレベーターでの私の態度が冷たくて怖かった、といまだにみほさんから責められている。みほさんの報告は立派なもので、その時から私はわくわく子ども学校に関わるようになった。わくわく子ども学校からコクレオの森に至る道は、正にフレネの思想を背景にした活動だったように思う。詳しいことは次の機会に。(芳仲 猛)



10周年記念パーティー (2013)



15周年記念パーティー (2018)

インフォメーション

… コクレオてらす …

里山あそび(2023年1月～3月)

◆親子の土曜クラス「そら」
対象：満3歳～就学前のお子さんと保護者
日程：1月21日/2月4・18日/3月4日
※2023年春クラスは2月頃ご案内しますので、ご興味のある方はお知らせ下さい。

◆森のアトリエ
対象：小学4年生までのお子さんと保護者
日程：1月28日/2月25日/3月25日
※只今、単発申込受け付け中です。詳細はHPを確認ください。

◆小学生の平日クラス「風」
対象：小学生
日程：1月11・25日/2月8・22日/3月8・22日
※2023年1月より定員を5名増やしています。詳細は、HPをご覧ください。

… コクレオてらす …

子育てカフェ こどもの森のハッピーアドバイス
「これで決まり!わたし丸ごとオッケーのコツ」
オンライン開催

子どもの自己肯定感、親の自己肯定感から。

第1回 1/11(水)「心をこめてわたし自身を承認しよう」
第2回 2/8(水)「自己受容～わたしを丸ごとオッケーする～」
第3回 3/8(水)「わたしへの手紙」

時間：10時～12時
参加費：2000円 3回通し5400円
定員：20名



発行日：2023年1月27日
発行者：認定NPO法人 コクレオの森

〒562-0032
大阪府箕面市小野原西6-15-31
TEL&FAX：072-735-7676
メール：info@cokreono-mori.com
URL：https://cokreono-mori.com/



《編集後記》

2023年明け、今年のコクレオの森にとっては20周年の大切な年です。法人のことをお伝えするこの通信も、「EDUCADO」「こどもの森通信」「コクレオてらす」と変わってきました。コクレオてらすは、今号が9号目。これからもご愛読をお願いします。(中村 幸子)



第9号 冬季



コクレオてらす



写真：20周年ロゴ作成中！

コクレオの森 20周年

藤丸 浩志

2023年、あけましておめでとうございます。わくわく子ども学校からスタートしたコクレオの森、今年が20周年のアニバーサリーイヤーにあたります。

私がこのコクレオに関わり始めたのは、ちょうど10年前。こどもの森では書籍「こんな学校あったらいいな」を作っている時で、前代表理事であるまーちゃんから「ちょっと写真を撮ってくれませんか？」とお話をもらい、それを引き受けたことが、コクレオに深く関わることになるきっかけの一つになりました。最初は書籍のために撮っていた写真も、私の中ではいつの間にか、記録としてではなく、こどもの森という学校のことを考えるために欠かせないものになっていきました。写真を撮りながら、写っている子どものこと、スタッフの表情、保護者の関わり、学校の在り方など、客観的にたくさん考えるようになっていきました。学習サポーター(現インターン)として週に1回だけだった時から、こどもの森に来るのが楽しくて、お願いされていない時も、この学習がある

からと理由をつけて撮影に向かいました。いつの間にか撮影よりも、ただ単にここにいたい、ここで過ごしたいと思うようになりました。

10年という時間が流れ、私はいつの間にか副校長になり、人も増え、事業も増え、忙しさに追われるようになってきました。どこまで子どもの様子を見て、声を聴いてあげることができているのか。スタッフや保護者の方々含め、関わってくれている人たちの想いを汲み取れているのか。うまく伝わらない時も、すれ違う時も多々あり、日々葛藤中です。それでも私にできることは、関わり続けて、一緒に活動してくれる人たちに信じることに。長くいることが、これから新しく出会う人たちの言葉や想いを奪うことのないようにすること。そして、これまで熱い想いを抱いて活動を続けてきた人たちの少しでも助けになるように。そんな気持ちで今年も進んで行こうと思います。

20周年、コクレオの森をどうぞよろしくお祈りします。

こどもの森



修学旅行に始まり、修学旅行に終わる2学期

例年よりは少し遅れて行き先の話が始まり、行き先が京都と大分の2案で意見が分かれたり、思うように資金集めのためのフリマの場所が押さえられなかったりと、なかなかスムーズにいかないことも少なくありませんでした。話し合いに時間がどんどん取られていく中で準備を並行しなければならず、多くの子が休み時間やプロジェクトの時間を使って調べ物をしたり、しおりを作ったりしていました。

学期末に近づくにつれて、自分の立てた学習の計画を進め、テーマの発表準備もし、6年生はその合間を縫って長期プロジェクトを進めながらも、みんな修学旅行に向けて取り組んでいました。多くの人が残りの時間への焦りや、限りある時間の中で自分がしたいことと修学旅行のためにしなければならないこととの葛藤を抱えながら、進めてきたのではないかなと思います。そして、なんとか行けそうだとしたところ、病気の流行。長期間休まざるを得ない人たちが何人も出てきて、修学旅行当日も欠席者が多数出るのはないかという不安がみんなの頭をよぎりました。

もしそうだったらどうするか、そうなら大丈夫なように、話し合いがしたいと子どもたちが希望し、学校に来られない子もオンラインで繋ぐ高学年集会が開かれました。僕自身も病気にかかってしまい、その話し合いには参加できませんでしたが、その姿は主体的そのものだったそうです。その話し合いやそこに臨む子どもたちの姿が見られなかったのは残念でしたが、そんな難しい状況の中で、クラスみんなの納得のいく結論を出すために、一人一人が主体的に話し合いに臨み、意見を出し、できることを探して取り組んでいたと聞いて、胸が熱くなりました。

話し合いの結果としては、一部を3学期に持ち越すこととなりました。修学旅行はまだ続きますが、子どもたちが成長し、それぞれの想いを大事にしたクラスになっていく様子を、3学期も見守っていきたいと思います。(藤 孝史)



保護者より

たかがスライム、されどスライム

小学1年の娘がこどもの森に入学してから、特に成長したなぁと感じることの一つが探求心です。学校の中でどんなことを探求しているかという、スライムを作ることで。低学年の先輩に教わりながら、自分で失敗と成功を繰り返しながら、自由に色々なバリエーションのスライムが作れるようになっていきました。正直入学したての頃は、毎日のように持って帰ってくるスライムにうんざりしかけたこともありましたが、捨て時に迷うし、服や家具に付いたら面倒だし。しかもスライムなんてきちんと材料を計って作ったら、誰でも簡単に作れるやんって密かに思っていたりもしました。けれど2学期が終わった今、スライム作りについて真剣に語る娘の話を聞いていると、こちらまでワクワクしてくるのです。「一度できあがったスライムもイメチェンができるねん。石鹸入れるとふわふわ、水を入れたらとろとろになるねん。」「失敗したと思っても、がんばって混ぜ続けたらちゃんと固まるねんで!」スライムってそんなに奥が深いのか! たかがスライムと思っていた自分を反省しつつ、1つのことに取り組む機会をくれるこどもの森に感謝をしています。(田井 美絵)

こそだての森



コロナ禍でも繋がるチーム“だんでらいおん”

2022年3月に豊能町子育てひろば“だんでらいおん”がオープンしてから、約10ヶ月が経過しました。“だんでらいおん”は乳幼児とその保護者が室内遊びを楽しんだり、子育て相談ができる場所です。

利用者は、豊能町はもちろん、近隣の箕面森町や川西市、「里帰り出産で豊能町の実家に帰省中です」という遠方の方まで様々。10ヶ月はあっという間で、オープン当初は寝返りもままならなかった赤ちゃんが、今ではよちよち歩きを始めていて、赤ちゃんの成長スピードに驚かされます。子どもたちはひろばに来るとおもちゃで遊んだり、なだらかな丘のようなペースで、丘を登ったり、降りたり、自由に遊んでいます。

イベントも数多く実施し、絵本の読み聞かせやベビーマッサージ、子ども服のお下がり会、夏祭りやハロウィン、クリスマスにちなんだ遊びなどをしてきました。利用者からは「近くにひろばができたから、近い月齢の子と遊べて嬉しい」「天候に左右されずに遊べる場所があって助かる」「だんでスタッフと話すとお前向きな気持ちになれる」など嬉しい声をたくさん聞いています。また「最近、言葉が増えてきたんです」などの成長の報告を聞く機会も多く、お子さんの成長と一緒に喜んでいきます。スタッフはさながら子育て応援団です。

実は“だんでらいおん”のスタッフは、オンラインでのミーティングを重ねてきたものの、対面で全員がそろったのは、11月の“一日がっこうと里山ハス”が初めてでした。この日はみんなで大喜びしたことは言うまでもありません。直接会えなくても業務に支障が出ないのは、連絡事項や困ったことや嬉しかったことを報告し合い、得意なことを頑張る、苦手なことは補い合いながら仕事ができるメンバーだからかなと思います。コクレオの森初めての業務委託となった“だんでらいおん”ですが、コクレオイズムはここでも変わらず芽吹いています。(大橋 寛実)



トピック!

はやくむかえにきてエ〜!

ある日学校に行ったら、落とし物が壁に掛けられていた! 残念だけど、子どもたちは時々落とし物をする。放課後ホールに行くのと靴下がよく落ちていた。サッカーなどをやる時に脱ぐのだから。水筒もある。いつ頃からかスタッフの提案で「落とし物BOX」ができた。学期が終わる頃には、玄関先に傘なども一緒に「自分の物は持って帰ってください!」と並べられる。自分の物を見つけて持ち帰る人もいるが、なかなか減らない! そしてある日、ハンガーにつるされて壁に掛けられていた、洗濯物を干すように…。「はやくむかえにきてエ〜」というコメントも添えられて。そうしたら、小1の女の子が靴下片方を持って帰ったらいい。お母さんはよくあの落とし物BOXから見つけたなと思われたそう。見つけやすかったんだと思う。他の物も見つけてあげてね! (中村 幸子)



おとなの森



対話の可能性を諦めない〜教育カフェの真価

「教育カフェ」がスタートしたのは2012年10月。大阪府・市に教育行政基本条例が出され、沖縄の普天間基地にオスプレイが配備された年。前年には東日本大震災があり、個々の暮らしも社会の展望も不安や疑問で覆われていた頃。逆に言えば、平和な未来、人と人との繋がりや対話の可能性、などを社会全体が模索していた頃。湯浅誠さんが話題提供者としてお越しくくださった第1回から、僕も実行委員の1人として参加している。気づけば早10年!(驚)

「障害」のある当事者&当事者の親、研究者、SSW(スクールソーシャルワーカー)、プロレスラー、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)、パラアーチェリー選手、元小学校校長、など。僕が窓口となってセッティングしてきた話題提供者の方々。我ながら、いろんな人たちと繋がってきたんだなぁ、と沁々。

「教育カフェ」が注力してきた心地良い企画づくり。安心して自分の意見を出せて、それを受け止めてくれる人がいて、自分も他者の意見を受けて考えを織りなしていく場。10年間積み上げてきた対話の長距離走、その真価は「(考え方や信念が)異なる他者」との対話の場面でこそ問われてくるはず。温かい場ばかりではないかもだし、時には対立も起こるかもしれない。でも、対話の可能性を諦めないこと。ここに集う僕らが志向する生き方になっていけば、お互いの意見を受け止め合える対話や関係のあり方、平和な社会への広がり、を目指して。(西江 尊徳)



ミライの森



人の凸凹、町の凸凹

去る11/20、地元の豊能町吉川での〈一日がっこうと里山ハス〉に実行委員&お客さんとして参加した。

昨年も感動したけれど、コクレオの森の皆さんは一人一人が自立していて、お互いを認め合った上で自分のできることを提供するので、今年も準備から片付けまでがとてもスムーズ。というわけで、心置きなく遊んできました!!

町の人が先生を務める一日がっこうのワークショップの中で印象的だったのが、社会福祉法人祥雲館さんの『いつまでも住み続ける町』でやった「〇〇で困ってます」と「それ、できます」をマッチングするゲーム。ある人が「犬が出ないように庭に柵を作ってほしい」と困りごとを発信すると、「僕できます!」と手が挙がる。またある人が「ボタンを付けてほしい」とヘルプ要請すると、「わたし得意です!」と手が挙がった。困り主にはできないことが誰かにとっては好きなことであり、困りごとは解決した。このゲームの意図は「日頃から小さな「助けて」を人に伝え合える文化を創ること」。これまで美德とされてきた奥ゆかしさゆえに、日本人は人に助けてもらうことに潜在的に抵抗がある。自分の凹みのために誰かを煩わすのは申し訳ないし...ん!? 待てよ。

〈一日がっこうと里山ハス〉が成功したのは、全員が完全無欠だからだったのか??

いやぁ。



誰かの凹があるから自分の凸が生き、自分の凹があるから誰かの凸が生きて、歯車みたいにグルグル回っていた。経験上、誰しも自分の凸凹には自分1人では気づきにくいもので、それは地域にも言える気がする。長年住んでいると自分の町のことは見えづらくなる。イベント準備をしていると「豊能町は何が凸で何が凹なのか」を考える機会がたくさんあり、町づくり活動のヒントとなった。

コクレオが地域とこういった繋がりを持つことによって町に気づきを与え、その解決を通して町の魅力をともに創っていけるような、そんな可能性を感じたイベントとなった。(佐竹 敦子)



Insanis days

卒プロがちょっとヤバイ編集長の一言
さて…今回の Insanis days は～？

『研修旅行エピソード集 ～報告会では聞けなかった話！？』『～編集長から見た文化祭 ～ゲーム大会のあれやこれやを語る～』
の二本です！文化祭は大分前の話なんでね、思い出すのに苦労しました。ぜひ楽しんでください！

「研修旅行行ってきました!!」

11月3日から11月10日まで中学部は研修旅行へ行きました。新型コロナウイルスなどの影響もあって研修旅行に行かない選択をした人もいました。今回はベトナムに行って驚いたことや、面白かったエピソードなどを伝えようと思います。ですが、もう既に子供の森の Twitter や研修旅行報告会などで色々なことを伝えているな～と思い、頑張ってネタが被らないように考えましたが、「あっ、これ聞いたことあるな」と思ってもあまり気にせず読んでいただくと助かります。



「バインミー辛すぎ事件」

ベトナムの有名な食べ物バインミー。初日の晩御飯にフォーを食べた後、(まだお腹に余裕があると言う事)バインミーを買ってホテルに持って帰って食べました。パクチー抜きで注文してもらったので、安心して食べていたその時！予想外の事態が起きます。なんか辛い物がバインミーの中に入っていたのです。辛い物は、シャリッとしていて、パプリカの内側を薄くスライスしたような触感でしたが、とにかく辛い、辛いのに当たった人たちは写真のように辛すぎて苦しんでいます。初めて、辛さで涙が出た人も居て、私ともう一人はなぜか当たらなかったから大丈夫だったのですが、心底当たらなくてよかったと思います。



「バナナ持ち帰り」

食後にデザートでフルーツが出て来ても、お腹いっぱい食べられない人も居ます。スイカやドラゴンフルーツはともかくバナナは食べられなくても持ち帰れるので後で食べよう、明日の朝ご飯にしよう、と思って持ち帰る人がいて、他の人の分も持ち帰ってくれて、そのおかげでちょっと小腹がすいたときや、朝ご飯が足りないと思ったときに食べることが出来ました。ありがとうございます!!



「見せつけ恋人繋ぎ」

中学部には1組カップルがいるのですが、(研修旅行時点)そのカップルが、“堂々”と非リアの前で恋人繋ぎをしていました。研修旅行だからサービス期間だったらしいです。週刊誌みたいな感じで記録係に撮影されていて面白かったです。



「モチ期到来!？」

六日目にフエの中学校に交流をしに行ったらバスを降りて校舎に向かっていると T2(仮名)のそばに一人の女の子が来ました。どうやらたつに一目惚れをしたようで、恋人繋ぎをしながら校舎に入ってきました。私たちが帰るときも名残惜しそうにしていました。今でもインスタの DM で時々連絡を取っているそうです。

「猛者」

同じく七日目、ベトナムでは当然交通量が多いうえに信号も少なく、あったとしてもほぼ守ってくれないので渡るのとても苦戦しました。ですが、まきびみなどの2人は容赦なく突き進んでいきました。さすが…と思いました。



「清掃の仕方」

七日目の観光でスイティエン公園というテーマパークに行くためにバス停でバスを待っているときに清掃の方が3、4人来たので逃げようと思ったら逃げ遅れた方(七海)が洗剤をかけられました。みんなは全くかけられずに逃げ切れたのですが、見事に七海だけが洗剤の泡がかかりました。遠くから見ていたのですがめっちゃ面白かったです。

「cold water please」

ディナークルーズというからには勿論ディナーを食べるのですが、食べるという事は飲み物も必要です。基本は飲み物がなくなったら係りの人が注ぎ足してくれますが、ここで注ぎ足されるのはお茶。しかし、水を飲みたい人だっています。なので水を飲みたいまきびは係りの人に「excuse me water please」と頼みます。すると暫くしてから飲み物が運ばれてきます。しかし、そのコップからは湯気が立ち昇っています。そう、運ばれてきたのはお湯だったのです。まきびはお湯が出てきたことにツッコミながらも「ice please」と言って何とか冷やして水として飲みました。でも、もう水を頼むときは失敗しません。まきびは隣に座っている人から助言をもらい「excuse me cold water please」と頼みます。すると冷たい水が出てきます！頼んだら水が出てくるのは当たり前だと思っただけですが、言語が違ってもやっぱり難しいことはあるんだなと感じました。



その2 サイズ詐欺

ベトナム T シャツを買いに来た一行。(まきび)そこで買ったサイズ詐欺。ベトナム T シャツを買おうと思って服屋に来たまきび。値切り交渉を始めます。前の店でもベトナム T シャツを買ったまきび。その時 62000vnd で買ったのでそれぐらいで買いたいと考えます。しかし値切っても 180000vnd。62000vnd はあり得ないと言われます。でも諦めて 180000vnd で買うことにしたまきび、Lサイズを頼みます。すると！目の前でXLのタグの上にLのシールを貼ってその T シャツを渡してきたのです！まきびはとても怒ってしまって、買わずに帰りました。「ベトナムばあマジきしょい」は暫く口癖と化していました。

その1 サングラスぼったくり

ベトナム市場ではぼられるのが当たり前。なので値切りは必須です。ガイドさんによるとかなり吹っ掛けてるみたいで、4分の1から値切り交渉をして、半額ぐらいには持っていかたいというように言うことを言っていて、多分みんなそれを目安に値切ったりしたと思うのですが。それなのに、それなのに某T2はサングラス1つを400000vndで買ったのです。値切りもせず！！研修旅行行ったときは100000vnd=600円くらいだったのでサングラス1つを2400円を買ったという事になります。冷静に考えてよくそれで買ったよな～と思います。なんでも面倒くさいし、こ以外でもお金を使う場面がなさそうだしいいかなという考えのもとこういうことが起こったらしいです。因みに彼はその後しばらくこのことをネタにされ続けました。

「フルーツ食べ過ぎ」

ベトナムではたくさんフルーツを食べました。ベトナム料理を食べた後は必ずと言っていいほどバナナやドラゴンフルーツ、スイカが出てきます。それ以外でもフルーツを食べる機会はたくさんあって、その中で、どんだけ食べるん？と思った人(こうき)がいます。ホーチミンで泊まったホテルは朝ご飯がピュッフェ形式で、こうきは黙々とスイカを食べ続けていました。スイカの皮が皿に山積みになる程に。スイカの方が足りるんかな？と疑問に思ったのですが、こうき曰く「なくなったらまた次の出てくるから大丈夫」だそうです。そして、カトゥー族の村に訪問したときに、もてなしで竹に詰めたもち米、たれを絡めてレモンの葉とともに焼いた肉、バナナが出てきたのですが、こうきはこのフルーツを食べまくる。昼ご飯を食べたすぐ後だというのにバナナを8本も平らげてしまいました。その時バナナ20本くらいしか食べてないと言っていたので、このカトゥー族で食べた分と後の2日で全部合わせて3、40本位食べているのではなからうか。凄。



「置いてけぼり」

最終日にスイティエン公園というテーマパークみたいなところへ行きました。まずお昼ご飯を食べて、そこから分かれて遊びに行こうと言う事で、とりえずご飯を食べました。それからトイレに行ってご飯を食べたところに戻ると…あら大変、みんないません。そう、1人取り残されてしまったのです。取り敢えず探そうと思ってその辺をうろろろしますが無駄に広いし、しばらく歩かないとアトラクションも何もありません。なんか変な仏像とか、神様っぽいおじさんの像とか橋とかドラゴンとか顔面とか、まあうまく言葉に表せないのですがとにかく変の一言に尽きるこの広いテーマパークに取り残されると不安になってきます。集合時間までこの場所で待ってこうかなとも考えたけど、それは勿体ない様な気がして人探し再開！幸い平日で全然人がいなかったで、見つけれないと言う事はなく、体感3,40分程で見つけることができました。迷子はずらいと学んだ時間でした。

「ディナークルーズ」

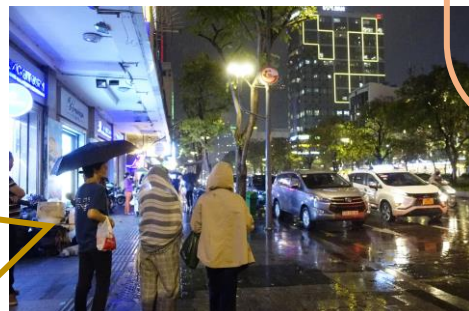
もうこんな感じの船な時点でやばいと思うのですがギンギンギラギラの上に爆音で音楽を鳴らして歌手が歌っているという最終日の夜で凄く疲弊している我々にとってはものすごく苦痛な空間が待っていました。もう、「やばいやん」しか思えなくなっていました。続く…

「こけた」

四日目に子どもの家というところで交流していて、空き時間に私が一人の小学三年生くらいの女の子と鬼ごっこをしていたら本気になってしまい、勢いをつけたら地面が滑りやすくなっていたのでこけた。こけた後はすぐに5、6人が駆けつけて心配してくれたのは良かったのですが全く痛くないの心配してくれたから恥ずかしくて、しばらく起き上がれませんでした。

「あれ、鍵ないかも…」

ホーチミンで泊まったホテルはオートロックで中にカギを忘れたら入れない感じになっていて、勿論中に鍵を置いて行ってしまった人が現れます。そして、私も鍵をなくした内の1人なのですが、そこで魔法の言葉の登場です！「Key in the room」と「I lost my key」この言葉をフロントの受付の方に伝えるとあら不思議。手元に鍵が戻ってきます。これにて一件落着。



「ナンパされました」

バインミーを買いに行った時の事。店の店員さんがまなみちゃんに、こう話しかけてきました。「出身は？名前は？ボーイフレンドはいる？いないんですか？だったら私が彼氏になりますよ(英語)」私はその様子を傍観していたのですが、ナンパって本当にされるんだな～と何かに感心していました。

「ホーチミンでの夜」

泊まったホテルはとても綺麗で過ごしやすかったです。快適すぎたのもあって夜遅くまでお菓子を食べながら恋バナなどをして楽しく過ごしていました。



「うるせえ！」

ホーチミンのホテルに泊まっていたら、一日目は外の騒音が凄かったです。私の部屋は9階(日本で言う10階)で高かったのにも関わらず、夜中までハッピーバースデーの歌が聞こえてきて全く寝れませんでした。

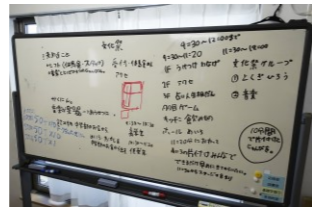
「寝れなかったんだわ」

夜は盛り上がりすぎたり騒音が凄かったのもあり、翌日のバスでの移動はほとんどの人が爆睡していました。編集長は眠気と戦いながら、外の景色を目に焼き付けていました。



編集長から見た文化祭

10月28日に開催された中学部文化祭。その準備の裏側や、本番の様子を私視点で、話して行きます。



5月2日、中学部は、今年共同プロジェクトで、何をするかを話し合っており、キャンプ、お泊り会、プールに行く、サイクリング、ゲーム大会、部活動をしたい、どこか行く、などの案があり、その中に小さい文化祭(後の文化祭)もありました。それぞれの案にやりたい人が集まって、具体的な企画書を作り、提案し、検討をしました。「文化祭はお金稼ぎにもなるし、面白そうだね」って事で、中学部全員でやる事が決まりました。そして時は流れて、2学期初めの9月。開催日が10月14日に決まり、本格的な準備がスタート、出し物を何にするか話し合い、やる事になったのが「ジュース&コーヒー、アクセサリー、わなげ、占い&人生相談、もぐらたたき、展示」ステージが「音楽、BMXショー」なんですが、後にもぐらたたきは僕一人が担当だったのですが、予想通り他の出し物で

手一杯になり中止、展示はそもそも展示する作品を作る人が少なかった+スペースの関係でもうやなくていいのでは?と思う人が担当から抜けていった結果、中止になりました。そして、実行委員がタイムスケジュールやメール送信などをしてきていました。そして各グループごとに、準備して行きます。私はゲーム大会、音楽、人生相談を担当している(人生相談は他の人に任せていましたが)、まず、音楽の曲決めに少しグダリましたが、なんとか練習時間を確保しながら練習に没頭していました。ただ練習期間が1ヶ月半ほど+別に僕の好きな曲じゃなかったのでモチベーションが湧かない時もありました。ただベースを練習するのは楽しかったです。人生相談は他の人に準備を任せて、シフトだけ出ると言うスタイルになりました。



メインのゲーム大会は、自分、Mくん、Jくんの3人で進めていました。前々から「こんな感じでやれたら良いな〜」って言うぼんやりとしたイメージが自分にあったので、それを形にしていく予定でしたが、ひとまずネットで「ゲーム大会 開催」で調べた結果…法律など色々難しい事が書いてありました。なるべく簡単に説明すると、お金を取る場合ゲームの運営会社に許可を貰う必要があるのと、風通し正法化に基づき、ゲームセンターと同じ扱いになる可能性があるためゲーム機は使えない、と言う事でした。なので、学校のPCで出来る無料ゲームかつ、大会として盛り上がるゲームを探して事になりました。当然、僕の頭の中にはこんな疑問が浮かび上がりました…「え?そんなゲームあるの?」そんな不安を抱えつつ、どう検索しようかと思ひ、学校のひとまず性能が高くなくても動作す

るゲームで検索を掛けて見たところ、とあるゲームを見つけました。それが[Brawlhalla]このゲームはスマブラにインスパイアされたゲームで、スマブラと違うのは、フィールドに落ちてくる武器を取らないとほぼ無力である事や、PCなのでキーボード操作にも対応している所でしょうか。公式が賞金付き大会を開くほど、勢いのあるゲームでもあります。ひとまずPCに入れてみて動作確認。問題無し!ならば、許可を取りに運営会社UBIソフトのホームページを検索しました。ですが、「どこに問い合わせればええねん!!」ってなって、HP内を探してみた結果、UBIソフトのアカウントを作って、問い合わせれば良い感じだったので、アカウントを作って(このアカウント作りが学校のメアドを使うとかなんとかで、地味に大変でした)こう問い合わせました↓

こんにちは 箕面こどもの森学園中学部のJと長岡です。文化祭というイベントにてUBISOFT御中のBrawlhallaを使った、生徒主導のゲーム大会を開こうと思うのですが、著作権法の関係上運営元に連絡をさせていただいております。

大会概要

- ・日時: 10月30日10時~11時20分開催予定
- ・会場: 箕面こどもの森学園
- ・参加料は300円以下。賞金はなし。商品は自作のメダルの予定。
参加料から費用は出さない(解説:参加料から費用又は賞金を出す=刑法賭博罪に当たる可能性がある為)
- ・会場内にて様子を映写予定。後日大会の様子をyoutubeに公開したい
- ・観戦料は取りません

以上の内容で大会を開催しようと思うのですが許可をいただけますでしょうか

〇〇 長岡康平

連絡できるのが、平日9時~16時まで、土日祝には連絡できませんのでお願いいたします。

といった感じです。ネットの解説を参考に書きましたが大分しんどかったですね。そしてメールを送り、これに対する返答がこちら↓

お世話になります。ユービーアイソフトPR担当のF(仮名)と申します。

この度はブrawlhallaのご使用についてご連絡いただきありがとうございます。

非営利目的での開催でしたら大会にてのご使用、Youtubeへの公開について問題ございません。お取り上げいただき幸甚に存じます。

1点お問い合わせなのが、参加料の300円は文化祭そのものへの参加費用という認識で間違いございませんでしょうか。

大会への参加料という形ですと非営利という点から外れてしまう可能性がございますため、確認させていただきたく存じます。

その他ご不明点などございましたらお知らせくださいませ。

どうぞよろしくお願いいたします。

うん…想定通りの返答が来ました。やはり、営利目的となるとすんなりと通してはくれないですね。さあ…どうしようか…単純に参加料を取ったら通してくれない…?じゃあ複雑化すればいいじゃないか!と言う発想で作った販売方法をメールで送りました。

ご連絡ありがとうございます。参加料についての説明は少々長くなります。文化祭の料金システムを話さなければなりません。文化祭では受付にて、50円のチケットを必要分買っていただき、それを使用してサービスを受けてもらう形になっております。そして、ゲーム大会の参加についてですが、「50円チケット10枚+ゲーム参加権」の特別セットを販売する予定でございます。通常の50円チケット10枚と比べて+300円(以下)程値段が上がる予定でございます。以上の事を踏まえてご判断願います。

これで通らなかつたら、文化祭に間に合いません。行ってくれ…!と思ひ。後日返信が来ました。それがこちら↓

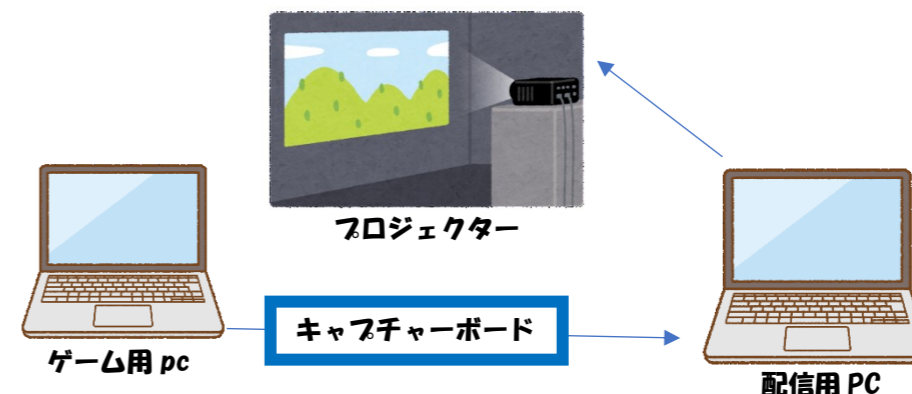
長岡様

いつもお世話になっております。UbisoftのeスポーツマネージャのYです。本件につき、開催を承認させていただきます。

また開催後、強制ではないですが、現場の写真など弊社宛に送ることができれば、ぜひお願いします!よろしく申し上げます。

ㄗㄗㄗㄗㄗ!勝ったああ!嬉しさのあまり、PCの前でガッツポーズをしていました。するしか選択肢が無い程、嬉しかったです!この間に、Mくんには優勝者への景品であるメダルを作って貰っていました。ですが、ここからが本番です。大会をどうしていくのか細かくはまだ決まっていなかったのです。販売方法をクラスに説明、受付との連携、画面切り替えの作成(ゲーム大会をやる上で絶対作らなければならぬ)、デコレーションと設営、当日は参加者の誘導方法、やり方の説明、シフト決め、対戦結果を記録する用紙などなど、決まっていなかったものがたくさんありました。この段階で、本番まで残り3日でした。「わぁヤバい…」ですが、事前に決めておいた事がひとつあって、大会に必要な役と言えば、実況ですよね!実況は自分がやる予定でしたが、人生相談のシフトに出るので、その間は出来ません、なので前半は自分が担当して、後半はもう一人、Pさん(ゲーム担当ではない)に、お願いしました。そして第一に取り掛かったのが、クラスへ販売方法を説明&承認を取る。これは説明が多少難しかったもののクリア、そして受付により詳しく説明もして連携も取れました。

ゲームの操作方法を記載した紙はJくんに頼みました。そして僕のやりたかったことの一つ、画面切り替えの作成!これは使うアイコンの原案をUさん(人生相談の担当、ゲーム担当ではない)に描いてもらい、それを元に家で作成しました。そのアイコンを使って、動画編集ソフトで動きとエフェクトを付けて、画面切り替えを完成させました!ただこの画面切り替えを使うにあたって、ゲーム画面を移すソフトの設定をするのが、ちょっと難しかったですね。そして本番前日に、設営をしました(デコレーションは時間が無くて出来ませんでした)。まず、ゲームをする用のPCを設置して、そこからキャプチャーボードと言うPC画面を表示して送ってくれる機械を挟んで、映像を配信する用のPCにつなぎます。そこからプロジェクターに線を伸ばし、投影することでゲーム画面を観客に見せる用になります。ここからちょっとだけPCの設定をしました。更に配信する用のPCに実況の音声を入れたいのでマイクを接続しました。そして、ゲームをする時につかうコントローラーを認識させる作業もやりました。



使ったキャプチャーボードとマイクそしてPS5のコントローラー1台+予備のPC用コントローラー1台(この予備が後に活躍します)を貸して頂き、実況まで手伝って頂いたPさんに、この場を借りて感謝を申し上げます。そしてもう1人PS5コンを貸して頂いたIさんにもありがとうございました。他の作業は当日の開始前の準備時間でやりました。この準備時間に、フリーだったBくんが合流、結構運営の人数がギリだったし、BくんはPCに強かったので、すごい助かりました。前日にやれなかった、参加者の誘導はまあこんな感じでしょうって言うやり方を共有して、分かんなかったらアドリブで行こうと言う感じになり、シフトは、うん…すまねえ、休み何て無いんだと言う感じ(Bさんも巻き添え)対戦結果を記録する用紙は自由作文の紙に縦線を引いて適当に作りました。そしてコントローラーを一台繋いで、もう一台も繋いで…繋いで…繋いで…繋がない!?そう前日にテストはしていたのですが、PS5コントローラー+予備のコントローラーでテストしていて、PS5のコントローラー同士ではテストしてなかったのです。これが仇となり文化祭開催時刻が始まった、コントローラーが動かず、予備で用意していた、別の種類のコントローラーを繋いでなんとか行きました。そうそうにトラブルがあったものの、なんとかスタート実況も楽しく出来、画面切り替えを使った時のお

~!って言う観客の声は、マジで嬉しかったですね~。時々コントローラーが動かなくなったりもしましたがBとJと自分で対応してこなして行きました。そして前半が終わり実況をPさんと交代して、自分は人生相談へ向かいました。ゲーム大会は総合結果では成功と呼べるんじゃないでしょうか!楽しかったですし、なにより達成感がありましたね~。ですが、デコレーションがあまりできなかった事、もうちょっと映像を凝りたかった事、コントローラーのトラブルがあった事、そして対戦結果を記録出来ていなくて、優勝者が分からず、メダルを渡せなかったなど(Mくんごめん!)反省点も多々ありました。出来れば2回目に挑戦してみたかった所ですが、私はもう卒業してしまうし残りの期間は卒プロや短い期間でまとめるWOなどやる事があり、時間が残っていません。私が卒業した後、今回のノウハウを生かして、誰かがゲーム大会を開いた時は是非見に行きたいです。

実はまだ語り切れていない事があるのでQRコードの動画の概要欄に書いておきます。以上で今回の記事を終わります。ここまで読んで頂きありがとうございました。

